

平成 18 年 12 月 21 日

各 位

不動産投信発行者名

東京都港区六本木六丁目 10 番 1 号
 六本木ヒルズ森タワー
 ジャパン・ホテル・アンド・リゾート投資法人
 代表者名 執行役員 鈴木 雅之
 (コード番号: 8981)

投資信託委託業者名

ジャパン・ホテル・アンド・リゾート株式会社
 代表者名 代表取締役 鈴木 雅之
 問合せ先 取締役・管理本部長 鈴木 博之
 TEL. 03-6439-0333

2006 年 11 月度の月次開示に関するお知らせ

ジャパン・ホテル・アンド・リゾート投資法人（以下「本投資法人」といいます。）の 2006 年 11 月度の月次総売上げ並びに宿泊部門の客室稼働率、ADR 及び RevPAR を下記のとおりお知らせいたします。本投資法人は変動賃料の支払いを伴うホテルであって、ホテル賃借人から開示について同意をうけることができたホテルについて継続的に月次開示をいたします。

記

項目/年月	客室稼働率 (%)	ADR(円)	RevPAR(円)	売上高(百万円)
神戸メリケンパークオリエンタルホテル	86.6%	15,266	13,215	641
新浦安オリエンタルホテル	91.1%	18,846	17,160	601
なんばオリエンタルホテル	91.3%	10,594	9,672	158
ホテル日航アリビラ	77.9%	18,053	14,056	382

2006 年 11 月売上に関するジャパン・ホテル・アンド・リゾート株式会社（運用会社）からのコメント：

神戸メリケンパークオリエンタルホテルについて

マーケット全体の客室稼働率が好調に推移するなか、宿泊部門は、マーケットの需要を捉えた料金設定が功を奏し、RevPAR の上昇に貢献しました。レストラン部門においては、宿泊部門の高稼働に牽引され朝食売上が前年同月に比べ増加し、昼食・夕食についても、客単価アップにより売上を増加させました。一方、婚礼部門の成約件数は引き続き前年を下回ったものの、一人当たりの単価は前年と比較して改善しています。

新浦安オリエンタルホテルについて

宿泊部門は、客室単価の高いベビーズ・スイート及び、改装後の客室において、エージェント・直予約を問わず販売室数を伸ばす事が出来た結果、ADR及びRevPARの上昇に繋がりました。また、

東京ディズニーシーにおける新アトラクション「タワー・オブ・テラー」による集客アップもあると思われま。レストラン部門においては、角川書店発行のエリア情報誌「千葉ウォーカー」にて、読者1202人&専門家5人が選ぶ、食べ放題グランプリ2006特集で、レストラン「グランサンク」がグランプリを獲得した事で、さらなる集客を促し前月に引き続き売上げ増加に繋がりました。

また、宴会部門においても、会議および地元顧客の宴会受注が増加し売上げ増となっています。

なんばオリエンタルホテルについて

大阪市内の主要ホテルの平均稼働率は対前年比プラスと好調に推移しています。そのような環境下、宿泊部門については、インターネット予約が伸びたことで、稼働率・ADR・RevPAR共に上昇する結果となりました。直営レストランは、旧「どんぼーい」の改装工事の実施時の売り止めによる売上げ減少を想定していたものの、朝食付きパッケージの宿泊客利用に牽引され当初想定していた売上を上回る結果となりました。

ホテル日航アリビラについて

沖縄県発表の2006年11月の航空会社輸送実績はJAL、ANA、SKY3社合計で506,510人と対前年同月比+4.9%と好調に推移しました。宿泊部門の稼働率は前年同月を下回ったものの、エージェント、インターネット販売において高単価商品を設定、販売した事が大きく起因し、ADR・RevPAR共に前年を上回る結果となりました。レストラン・宴会部門においては、婚礼及び宿泊客の利用が増え摂食率が向上したことにより前年同月を上回る売上となりました。

-
- 注1) 上記のコメントは運用会社が賃借人から提供を受けた情報に基づいて作成しており、あくまでおおむねの傾向についての参考情報として記載するものにすぎません。コメント中に記載された数値・情報については、監査等の手続を経ているものではなく、運用会社による独自の検証を行ないうる性質のものでもなく、個々の数字・内容の正確性・完全性について保証できるものではありませんのでご注意ください。
- 注2) 各月の数字については監査等の手続を経ないため、各月を合計した金額は、後に提出する半期報告書、有価証券報告書に記載される6ヶ月間及び年間の売上合計と合わない場合があります。また、各月の売上についても、半期報告書、有価証券報告書に記載される各月の売上と相違する場合があります。
- 注3) ADR：平均客室販売単価(Average Daily Rate)をいい、一定期間の宿泊部門売上高合計(サービス料を除きます。)を同期間の販売客室数合計で除した値をいいます。
- 注4) RevPAR：販売可能客室数当たり宿泊部門売上(Revenue Per Available Room)をいい、一定期間の宿泊部門売上高合計を同期間の販売可能客室数合計で除したものをいい、ADRと客室稼働率の積にて計算される数値と同値となります。
- 注5) 客室稼働率については小数点第2位を、ADR、RevPARについては小数点第1位を四捨五入して記載しています。売上高については、百万円未満を四捨五入して記載しています。

以上

* 本投資法人のホームページアドレス：<http://www.jhrth.com/>